

平成30年11月 5日

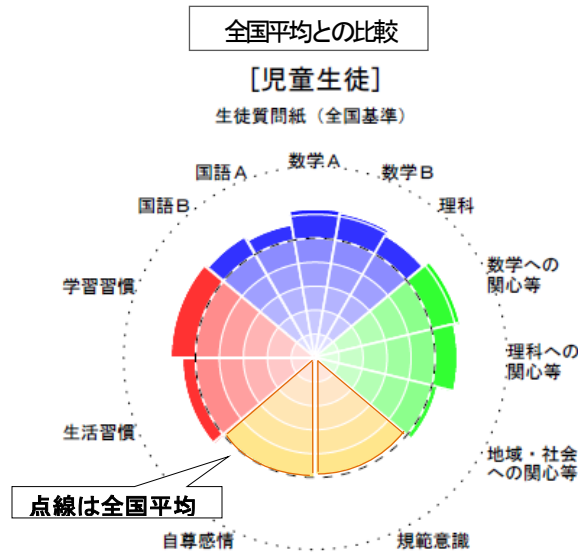
保護者のみなさま

豊能町立吉川中学校  
校長 板倉 忠

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月17日（火）に、3年生を対象に今年度は理科が加わり実施しました全国学力・学習状況調査の結果を「国語」、「数学」、「理科」、「学習状況（生徒質問紙より）」についてご報告します。

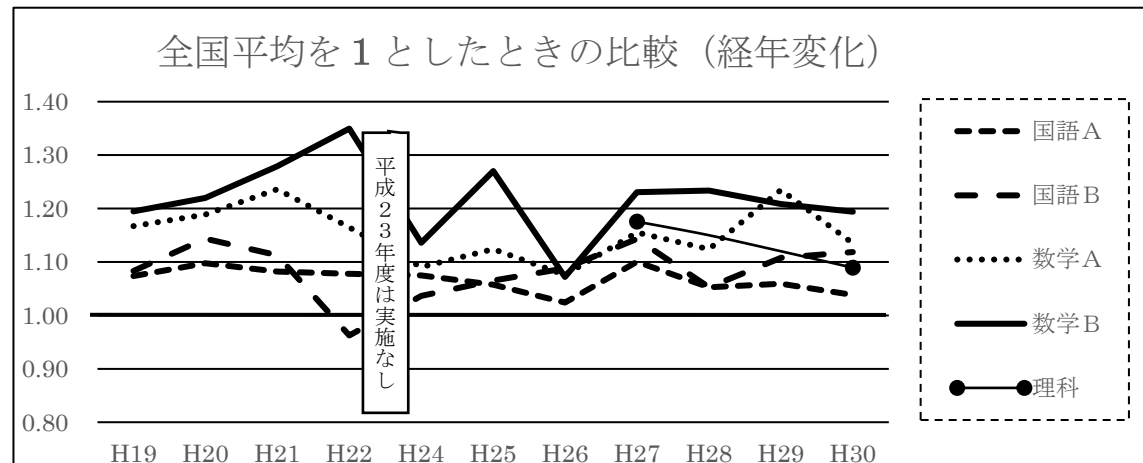


記

本年度は、国語A、B、数学A、B、理科の3教科5種類の学力調査と生徒質問紙による学習状況調査が実施されました。

学力調査は、年度により変動はありますが、今回実施された理科も含め、全教科とも全国より良好な結果でありました。ただし、この調査で得られる結果は学力の特定の一部であることにご留意ください。

また、学習状況調査では、学習習慣についての項目が大きく国の平均を超え、また数学、理科への関心も大きく超えました。



※ 理科は平成24年度も実施されましたが、実施方法が異なるため比較していません。

### (1)「国語」について

言語についての知識・理解・技能の問題において、一部、正答率が全国平均を下回る設問がありました。しかし、全体としては、府平均・全国平均と比較して、A問題・B問題ともに良好な結果でした。

問題番号	問題内容	△は、本校と全国との正答率の差
A問題2二	二つの意見の内容を一文で書き加える。	△7.0ポイント
B問題1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する。	△9.1ポイント
B問題3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するか書く。	△8.8ポイント

問題番号	問題内容	▼は、本校と全国との正答率の差
A問題8一2	「漢字を書く（舞台のマクが上がる）」	▼7.9ポイント
A問題8三ウ	「適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことを□□。）	▼3.0ポイント

問題番号	問題内容
A問題8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く。
B問題1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。

### 〈 考 察 〉

今回のテストでは記述問題の無解答率が非常に低かったです。これは生徒たちが普段から様々な場面で「書く」活動に取り組んできたことが一因にあると思われます。一方で、言語についての知識・理解・技能の領域の設問において、一部全国平均より正答率が低い問題もありました。漢字や慣用句・言葉遣いなどの表現については、授業の単元として取り上げるだけでなく、日々の授業の中で「書く」「話す」活動を取り入れ、繰り返し学ぶ機会を作り、定着させられるよう今後も継続して取り組んでいきます。また日常的な言語習慣を育むため、朝の読書や魅力ある学校図書館づくりを進め、読書推進も行っていきます。生徒たちが言語に対する知識や感性を育み、豊かな言語使用者として成長していけるよう、今後も多様な「読む」「書く」「話す・聞く」活動を継続していきます。

## (2)「数学」について

全国平均を下回った問題が下記の3問のみで、B問題では全て上回るという結果で、良好な結果でした。ただ、全国的にも正答率の低い難しい問題でしたが、B問題の数学的な説明を求めている問題での正答率が低い傾向にありました。

〈正答率が全国と比較して大きく上回っている問題〉  $\Delta$ は、本校と全国との正答率の差

A問題 1 5 (1) 「硬貨を多数投げ返す試行で、事象の相対度数の変化について正しい記述を選ぶ」という問題	$\Delta 24.2$ ポイント
B問題 2 (2) はじめの数としてどんな整数を入れても、結果は4の倍数になる説明を完成させる」という問題	$\Delta 24.9$ ポイント

〈無解答率が全国と比較して上回っている問題〉  $\nabla$ は、本校と全国との正答率の差

A問題 3 (2) 「簡単な比例式を解くことができるか」という問題	$\nabla 1.9$ ポイント
-----------------------------------	-------------------

全国と比較すると正答率は上回っていますが、無解答であった割合も全国より上回っている問題です。2つの事柄を比例式にまとめているという性質を理解できれば、数学的に解くことが可能となると考えられます。

〈正答率が全国と比較して下回っている問題〉  $\nabla$ は、本校と全国との正答率の差

A問題 1 (1) 「数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る」という問題	$\nabla 4.5$ ポイント
---------------------------------------	-------------------

負の数は絶対値が大きいほど小さくなることを理解できているかを問う問題です。

A問題 4 (1) 「ひし形が線対称な図形か点対称な図形かを選ぶ」という問題	$\nabla 1.8$ ポイント
--	-------------------

ひし形という図形の対称性を捉えられるかという問題です。対角線を折り目として折り返すことができ、対角線の交点を中心として $180^\circ$ 回転させると元の図形にぴったりと重なることから、ひし形は線対称でもあり点対称でもある図形ということになります。

A問題 1 2 「歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ」という問題	$\nabla 8.7$ ポイント
---	-------------------

具体的な事象の考察から一次関数の意味を理解しているかを問う問題です。

〈正答率は全国より上回っているが、正答率が低い問題〉

B問題 3 (3) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるか」という問題
--

列車のダイヤグラムを用いて事象を単純化させ特徴を捉え、数学的に解釈する力を問う問題です。

B問題 5 (2) 「数学的結果を解釈し、その理由について数学的表現を用いて説明できるか」という問題
--

バスツアーの料金プランを題材に、数学的に表現したり説明したりする力を問う問題です。里奈さんの計算2の過程を解釈することができれば、理由を説明することが可能となります。

## 〈 考 察 〉

A問題、B問題共に「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全領域において、全国の平均正答率を上回っています。その中でも「図形」「資料の活用」領域は大きく全国平均を上回っていることから、数学的な「基礎・基本の力」「活用する力」の定着に加えて、図形の認知・把握能力、データを整理し状況に応じて使い分ける能力に長けていると考えられます。

しかし、今回の調査において、ケアレスミスが目立つことや、積極的に自身の考えを表現することに苦手意識が見られるという結果も浮き彫りになりました。普段の授業においても反復の意識を持つよう呼びかけたり、自身の考えを文章に表現してみたりなどといった取り組みを引き続き進めていきます。

## (3)「理科」について

全27問における平均正答率は全国平均を10ポイント程度上回っていました。また、正答した問題数については、中央値(21問正解)をやや上回った(22~24問正解)生徒の人数がやや多く、中上位の成績の生徒が全国よりも多かったことが特徴です。

〈正答率が全国と比較してかなり上回っている問題〉  $\Delta$ は、本校と全国との正答率の差

問題 6 (2) 以外は全て知識を問う問題です。6 (2) については無解答の生徒が少なかったです。	
問題 3 (2) 太平洋高気圧の特徴を答える問題	$\Delta 20.8$ ポイント
問題 5 (1) 神経の名称を答える問題	$\Delta 15.1$ ポイント
問題 6 (1) 電流計を表す図記号を選ぶ問題	$\Delta 11.7$ ポイント
問題 6 (2) 電気抵抗の大きさを求める問題	$\Delta 17.4$ ポイント
問題 7 (1) 「震度」「主要動」という用語を当てはめる問題	$\Delta 10.2$ ポイント

〈正答率が全国と比較して下回っている問題〉  $\nabla$ は、本校と全国との正答率の差

問題 1 (1) 半透明な板に上下左右を正しく文字を投影するには、元の文字をどのように映すかを答える問題	$\nabla 2.3$ ポイント
--	-------------------

図を見て直感的に正解を選択する問題です。

問題 4 (2) 金網に付着するススの量を調べる際に必要な条件制御に関する問題	$\nabla 3.5$ ポイント
---	-------------------

問題 8 (1) アルミニウムの原子記号を選ぶ問題	$\nabla 8.3$ ポイント
---------------------------	-------------------

原子の記号に関して、大文字小文字の基本的ルールを忘れていました。

〈正答率は全国より上回っているが、正答率が低い問題〉

問題 2 (2) 正しい濃度のビーカーを選ぶ問題
--------------------------

問題 2 (4) 実験の条件がどのように変化するかを想像する問題
----------------------------------

問題 3 (3) 台風の進路が何によって変化するかを答える問題
---------------------------------

正答率は低かったが、本校生徒は、全国平均と比べ無回答の生徒が非常に少なかった。

問題 4 (3) 化学反応式の作り方を元にして、物質のモデルを正しく作成する問題
--

問題 8 (3) 実験結果から、新たな疑問を考える問題
-----------------------------

## 〈 考 察 〉

問題の形式による違いをみると、「選択式」「記述式」と比べて「短答式」の問題の正答率が高く、用語の適切な使用には慣れていません。また、評価の観点による正答率の違いとしては、「科学的な思考」「観察実験の技能」に比べて「知識・理解」に関する問題の正答率が全国平均より高く、思考の過程で必要な知識については十分に身につけています。さらに、問題3(3)、4(3)、8(3)など、熟考する必要があり即答はできないタイプの設問(答えを導くのに段階を踏む必要がある設問)において、本校は無解答の生徒が全国平均と比べてかなり少ないことが注目されます。このことは、生徒質問紙において、話し合う活動の経験が全国平均より多いこと、さらに資料・文章・話の組み立てを工夫していたと回答した生徒が多かったこととも関連があると推測されます。

普段から多くの生徒が、学習活動の中で基本的な用語の使い方に気をつけるとともに、筋道立てて考えたり、文章や図式を用いて分かりやすい表現になるよう工夫したりすることなどを通じて、理解を深め、力をつけてきたと考えられます。今後も、観察・実験を通じた直感的な理解を図るとともに、「話し合い活動」や「情報をもとに自分なりに考えてみる」ことに対して生徒が積極的に取り組めるような授業づくりを進めることが肝要であると思われま。

**(4) 学習状況調査について** ※「肯定的」には「どちらからといえば…」を含む。

今回の調査で、本校の生徒の回答が全国と比較して肯定的評価が大きく上回ったものの特長なもの、次の項目でした。家庭学習の様子や各教科（今年度は数学と理科）の学びへの取組み姿勢などについて、生徒の頑張りがよく表れていると思います。今年度は、理科の調査が行われましたので、例年は無い項目ですが、理科に関する質問が多くありました。

**<肯定的評価が大きく上回った項目>**  $\Delta$ は、本校と全国との肯定的評価の率の差

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」  $\Delta 24.2$ ポイント
- 「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」  $\Delta 24.0$ ポイント
- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだりすることがありますか」  $\Delta 11.2$ ポイント
- 「数学の勉強は好きですか」  $\Delta 17.4$ ポイント
- 「数学の授業の内容はよく分かりますか」  $\Delta 18.1$ ポイント
- 「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」  $\Delta 15.8$ ポイント
- 「理科の勉強は好きですか」  $\Delta 9.4$ ポイント
- 「理科の授業の内容はよく分かりますか」  $\Delta 13.1$ ポイント
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」  $\Delta 13.7$ ポイント
- 「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」  $\Delta 12.5$ ポイント
- 「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」  $\Delta 20.9$ ポイント
- 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」  $\Delta 16.8$ ポイント
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分で考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」  $\Delta 12.5$ ポイント

**<肯定的評価が下回った項目>**  $\nabla$ は、本校と全国との肯定的評価の率の差

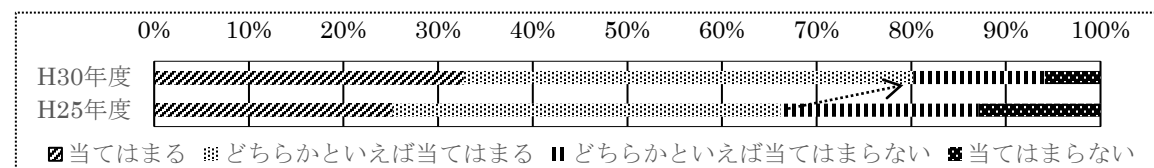
今年度下回ったのは、前59項目中次の3項目でした。

- $\nabla$ 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」  $\nabla 8.2$ ポイント
- $\nabla$ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」  $\nabla 3.9$ ポイント
- $\nabla$ 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」  $\nabla 0.8$ ポイント

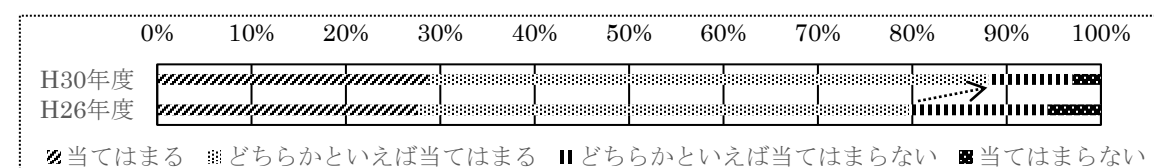
**<過去の結果と比較して肯定的評価が大きく増加した項目>** ※データは、(H25→H30)として記載。

過去のデータと比較してみたところ、大きく向上していることが見えてきました。

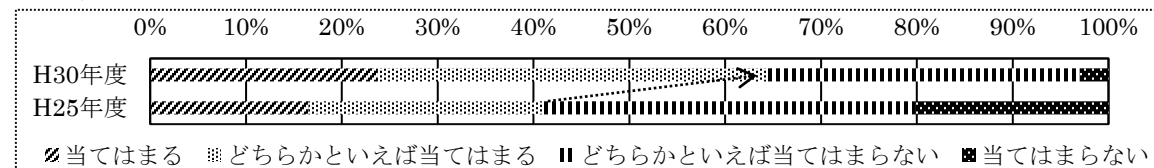
①「自分には、よいところがあると思いますか」(66.2→80.2)



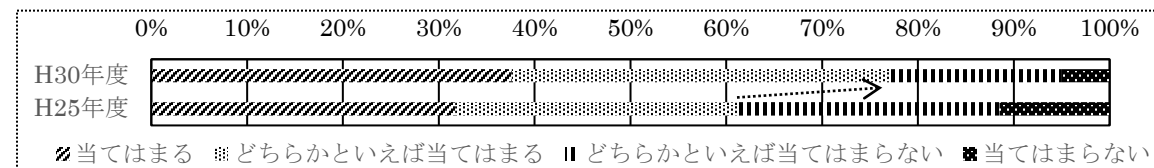
②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(78.4(H26データ)→88.1)



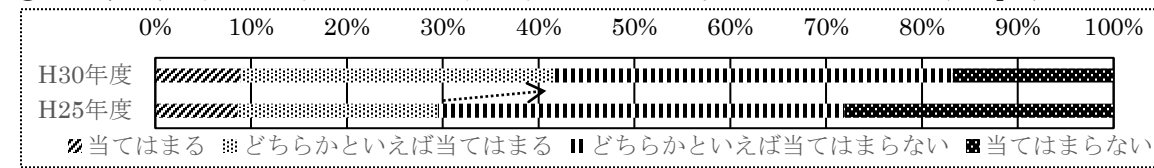
③「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」(41.0→64.4)



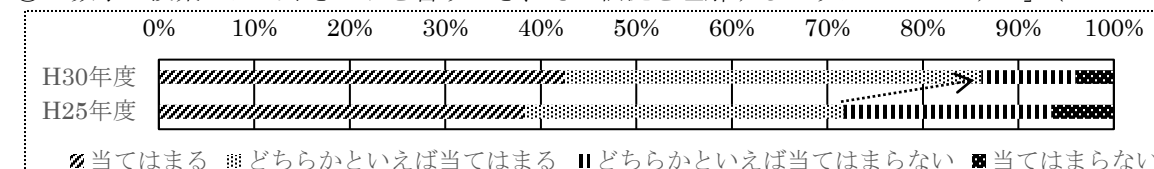
④「家の人と学校での出来事について話をしますか」(61.2→77.2)



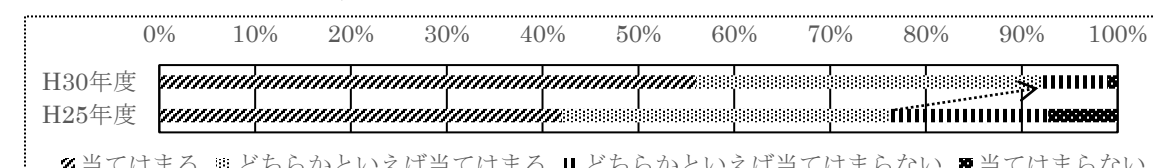
⑤「地域や社会をよくするためには何をすべきかを考えることがありますか」(29.5→42.5)



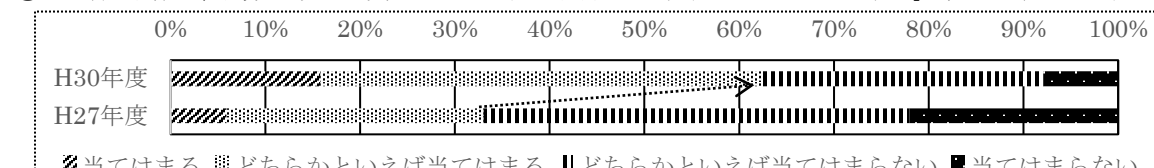
⑥「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」(71.2→86.2)



⑦「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」(75.5→91.0)



⑧「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」(33.0(H27データ)→62.3)



**(4) まとめとして**

今年度の結果は、学力調査及び学習状況調査とも概ね良好な結果であったと思います。また、5年前と比較してみたところ、家庭学習の様子や生徒質問紙の「家の人と学校の話をしますか」など、5年間で大きく肯定的評価が増えていることがわかりました。学校と家庭が連携して生徒の成長を育むということが教育効果を大きくすると思います。

重点目標としている「意欲を育て、主体的に学ぶ授業の研究と実践～わかる授業の創造～」は、これからの社会を生き抜いていくために必要な、主体的な学びとコミュニケーション力の育成につながると考え取り組んでいます。具体的には、意見発表の機会やグループで討議する機会、さらには、根拠を明確にして自分の考えを発表する機会などを授業で増やしていくことに取り組んでいます。理科の授業で、自分の考えを表現する機会が多く設けられている様子が伺われます。「柔軟に対応できる吉中生」という目標に向かって、今後も継続して取り組んでいきます。